

地小出版
方小版

情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

文学者に愛された地から新風を 「あをによし文庫」と「大和路ろまん文庫」 二つのシリーズに夢を託す

文・住田 幸一

今年(二〇〇九年)の七月に奈良の郷土本シリーズ「あをによし文庫」の第一冊『奈良の佛像たち』を出版した。企画から出版まで、もう少しスムーズに運ぶ予定だったが、第一弾ということもあり意外なほど手間取ってしまった。『奈良の佛像たち』は、内容も、深い緑に伎芸天女像のイラストをあしらった表紙の落ち着きも第一弾にふさわしい出来だと自負している。著者の中村光行氏は、奈良在住の仏教ジャーナリストとして奈良の出版物を中心に精力的に執筆活動をされ、膨大な知識に裏打ちされた、独得の味わいのある語り口には定評がありファンも多い。『奈良の佛像たち』は、巷にあふれている同工の書籍のような写真や図版は一切使用していないが、それだけにまた、それらの書物とは一線を画した「読み物」としての魅力に溢れている。正に「あをによし文庫」の一步にふさわしい待望の一冊だ。

時代を考えれば、やはり「向こう見ず」の一言だが…

「なんで、こんな時代に出版社なんですか？」
と、本当によく訊かれる。大手の出版社も倒産する時代。やや回復傾向にあるとは言え、世界的な大不況であることに変わりはない。
「また、よく思い切りましたな」

執筆をお頼みした多くの方が、そう言って心配して下さい。奈良から出版される本が無い訳ではない。が、きわめて少ないと言わざるを得ない。かつてほど文字が読まれなくなった時代に、京都や大阪に比しても遥かに情報発信の少ない奈良で出版社を立ち上げたのだから、誰もが驚くのは無理もない。しかし、かつては多くの文学者が奈良を訪れ、その文化や風土に魅せられ、あまたの文学作品がここから生まれた。谷崎潤一郎、森鷗外、会津八一、堀辰雄、和辻哲郎、芥川竜之介、志賀直哉、滝井耕作、広津和郎、尾崎一雄、宇野浩二など…古いところでは井原西鶴や上田秋成も奈良



を舞台に書いている。そんな奈良で出版社を作りたいという夢を胸中に暖めだして、もう随分になる。その長年の思いが、奈良の古きよき文化や風土にこだわりながらも、現代の読者のニーズに応えられるシリーズとして企画した「あをによし文庫」となって結実した。第二弾は奈良の鹿百科的な一冊『奈良の鹿 あんなことこんなこと』で、編集も順調に進んでいる。あとには平城宮跡の保存に尽力した人々に光を当てた『平城京を守った男たち(仮題)』や平城宮跡から出土した木簡について分かりやすく解説した一冊(題名未定)、そして、いつの時代も人の営みと共に生きてきた鬼たちを語った一冊(同)など、企画は目白押しだ。

ともあれ、夢は現実となって歩み出したのだ。

慎重に進むか、大胆に駆けるか、次の一步に頭を悩ませる日々

文学者の愛した奈良、文字に綴られたロマンの香りを現代の奈良に甦らせようという思いから企画したのが、もう一つのシリーズである「大和路ろまん文庫」だ。ヒントは旅行先のホテルの部屋にあった小冊子にある。ほぼ文庫本と同サイズの、僅か数十ページの冊子に定価はなく、気に入れば、まるでフリーペーパーのように持ち帰り自由。何気なく手に取って、部屋でページを開いた瞬間からそのささやかな物語の世界に引き込まれてしまった。話は女性の一人旅、しかし、旅先でも彼女はきのうまでの現実を引き摺っている。どこにでもある話だが、巧みな文章が生きている。読み終えて、そこはかたなくこみ上げてきた旅情をどう表現すればいいのだろう。ただそのとき、旅情を誘(いざな)う小さな物語の詰まったこんな一冊は、奈良にこそふさわしいと思ったのは、よく覚えている。その思いは、奈良を愛する地元ライター達が綴った恋愛ショートストーリーとなって、「大和路ろまん文庫」に一編ずつ収まっている。奈良を舞台とすること、短編恋愛物語であることを必須条件とするこのフリーペーパースタイルのシリーズは、幸い手に取って下さった方の評判もよく、置いて下さるところも広がりつつあるので、今後の展開が楽しみだ。広く書き手を募って、息の長いシリーズにしたいと考えている。また、文学によるこのような形のまちおこしが全国的に広まればと思っている。

私を知る多くの方が、おそらく私の歩みを懐疑的に見ている筈だ。私自身も次の一步はどうしても慎重にならざ

るを得ないが、考えてみれば、地方出版だからこそこできる大胆な一歩も必要なのではないか。いや、むしろ生き残っていく道は、そんな一歩にこそあるのではないか。そう思いながらも、つい常識的な企画に気持が傾いてしまう自

分を戒めている今日この頃だ。奈良の魅力を知る本なら、少し書店を歩けば両手に余るくらい手に入るだろうが、その中で、新味を出して読者の心を捕えるにはどうすればいいのか。そもそも、読者を魅了するような

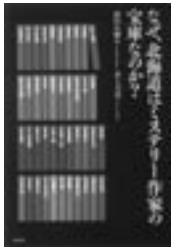
斬新な切り口は、まだ残されているのか。これから益々、眠れない夜が続くそうである。

(すみだ こういち／京阪奈情報教育出版株式会社 代表取締役)

新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

『なぜ、北海道はミステリー作家の宝庫なのか?』 ●鷲田小彌太著



ミステリー作家は数多く存在するが、北海道出身者が多いのは意外なところ。現在活躍中の佐々木譲や京極夏彦、馳星周など、続々と名が挙がるが、本書は道内出身者やゆかりの深い作家及び評論家を著者リストと共に戦前・戦後・現役の三部構成で42人紹介している。著者は札幌大学教授と教授の研究所所員の二人で、称賛と期待、時には辛口作家論を展開していく。さらに注目し

たいのが、戦前編で登場する水谷準、長谷川海太郎、久生十蘭の日本ミステリー史に欠かせない三人が揃って函館出身という事実。函館は日本ミステリーの水源地の一つと本書は強調するが、他にもたくさんの視点が詰まった、まさに「発見の書」である。

◆1680円・四六判・274頁・亜璃西・北海道・2009/7刊・ISBN978-4-900541-81-8

『復元! 江戸時代の長崎 —博物館にのこる絵図のかずかずを現代地図上に集大成』 ●布袋厚著



江戸時代、長崎では数え切れない絵図が作成された。中でも長崎歴史文化博物館に収蔵される天地452p、幅360pにも及ぶ「長崎惣町絵図」は白眉である。明和年間(1765年頃)の成立で、道路、水路、海岸線、屋敷、建物など精密さと正確さにおいて比類がない。ところが、これまでなぜか余り知られてこなかった。そこで、2006年に、町歩き博覧会「長崎さるく'06」が開催されたこ

とを契機に、現代図にこの絵図らを重ねて、町の様子を復元する作業が始められた。思案橋の正確な位置など多くの発見もあった。当時の長崎の繁栄振りが手にとるように分かる。町歩きガイドブックとしても最適である。

◆2520円・B5判・189頁・長崎文献社・長崎・2009/8刊・ISBN978-4-88851-138-4

『ストップ! 風力発電 —巨大風車が環境を破壊する』 ●鶴田由紀著



風力発電は“エコ”といわれる。なにしろ風が原料なので、火力発電のような二酸化炭素は排出しないし、ウランを燃料とする原子力発電のような放射能汚染の危険性もない。ところがどうして、本書を読むと、とんでもないシロモノのようだ。巨大な風車建設では広大な森を伐採して山を切り崩し、掘り出した土砂で谷が埋まるという環境破壊。その巨大風車が動き出すと、近隣住民は

騒音や低周波による健康被害に悩まされる。また、風しだいの風力発電は電力供給が極めて不安定で、風を電力に変換する効率も低く、結局、実際の運用にあたっては膨大な税金が投入されるという。風力発電の真の姿が見えてくる一冊である。

◆1260円・A5判・95頁・アットワークス・大阪・2009/8刊・ISBN978-4-939042-56-0

『ダラエヌールの子供たち —伊藤和也写真集 アフガニスタンの小さな村にて』 ●伊藤和也著



2008年8月、アフガニスタンで凶弾に斃れた伊藤和也撮影の写真集が刊行された。30年に及ぶ戦乱と旱魃によって荒廃したアフガンの大地に再び農業を復活させるべく、彼は、NGOペシャワール会(代表中村哲医師)の一員として、ダラエヌールで様々な作物の栽培試験を行っていた。

現地にとけ込んで5年、とりわけ子供たちから「イトー、アクスウバセ」(伊藤、写真とって!)

と親まれた彼の写真には、農村のありのままの姿がある。そこには、マスコミの戦場報道写真やプロカメラマンには見えないもう一つの世界が写っている。「(子供たちのきらきらと輝く)その瞳の中に和也が写っている」と彼の遺族も追悼しているそのとおりの出来ばえだ。

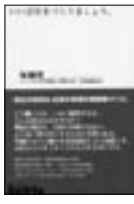
◆2625円・245mm×255mm判・117頁・石風社・福岡・2009/9刊・ISBN978-4-88344-178-5

売行良好書

期間：2009年9月16日～10月15日

【出荷センター扱い】※税込み価格

- (1)『作っておくと、便利なおかず』1260円・ベターホーム出版局 (2)『イエスの涙』1995円・アートヴィレッジ (3)『生きたい!!』1300円・リーブル出版 (4)『いい会社をつくりましょう。』1260円・文屋 (5)『しりとりしましょ!』1890円・リーブル (6)『ひつつきむしの図鑑 フィールド版』1050円・トンボ出版 (7)『ことばの贈りもの』1470円・東京子ども図書館 (8)『冷凍しておくと、便利なおかず』1260円・ベターホーム出版局 (9)『おねしょはココロの涙です』1050円・アートヴィレッジ (10)『三成伝説』1995円・サンライズ出版 (11)『ゆりちかへ』1365円・書肆俣俣房 (12)『ドラエメールの子供たち』2625円・石風社 (13)『小説家の開高さん』1800円・フライの雑誌社



【三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書】※税込み価格

- (1)『酒とつまみ 第12号』400円・酒とつまみ社 (2)『東京かわら版 10月号』420円・東京かわら版 (3)『谷根千 幻の94』525円・谷根千工房 (4)『谷根千 93』525円・谷根千工房 (5)『龍馬・新撰組が駆けた幕末京都めぐり地図』680円・ユニプラン (6)『三成伝説』1995円・サンライズ出版 (7)『決戦! 八王子城』735円・揺籃社 (8)『よみがえる滝山城』735円・揺籃社 (9)『16世紀末 全国城郭縄張図集成 上下』7000円・岩田書院 (10)『昭和プロレスマガジン 18』1000円・昭和プロレス研究室

【ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書】※センター出荷データより/税込み価格

- (1)『酒とつまみ 第12号』400円・酒とつまみ社 (2)『NO! No. 113』300円・海鳥社 (3)『マカオのほほん』350円・凹凸之そと (4)『談 No. 85』840円・アルシーヴ社 (5)『ひつつきむしの図鑑』1050円・トンボ出版 (6)『ばびる文庫 No. 3』500円・ばびる文庫 (7)『どんぐりの図鑑 フィールド版』1050円・トンボ出版 (8)『検証 網野善彦の歴史学』2940円・岩田書院 (9)『音頭大百科』483円・スモール出版 (10)『日本語訳詞の洋楽カバーおもしろ大百科』483円・スモール出版

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。
<http://www.bekkoame.ne.jp/~much/>

トピックス — ★★★

▼三省堂古書館がオープン

10月27日、三省堂神保町本店けやき広場ヨコ神保町第2アネックスビル4Fに三省堂古書館が新規オープンします。古書通販サイト「スーパー源氏」参加店32店のリアル店舗として機能することになるそうです。営業時間は10:00～19:00。オープニングイベントとして、けやき広場で特設テントにて青空市を開催する予定です。

▼2010年カレンダー

今年もカレンダーが続々入荷中です。定番は日本野鳥の会の『ワイルドバード・カレンダー』(1470円)や風呂猫『なごみねこカレンダー』(1050円)『ますむらひろしアタゴールカレンダー』(1050円)等々ですが、最近増えてきたと感じるのが、その日の月の形や月齢がわかるルナ・カレンダーでしょうか。アテネ社『月のカレンダー』(1000円)は太陽と月と地球の関係をデザイン的に表現したユニークなもの。同『月と太陽の出会い』(840円)は、月齢・旧暦併記の卓上カレンダー。シーガルの『旧暦カレンダー』(1575円)はエコロジー時代の暦として注目されているという太陰暦のカレンダー。旧暦は「明治5年に現行の太陽暦(西暦)が採用されるまで、約1200年も日本人が慣れ親しんできた暦。…二十四節季、七十二候を組み込んだ自然歴・農事暦でもある」(フライヤー紹介文より)。同社では他に『ルナ・カレンダー』(1890円)『タイド(潮汐)・カレンダー』(1890円)『歳時記カレンダー』(2100円)があり、月にこだわったラインナップになっています。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。


◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。

◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。

★地方・小出版流通センター

FAX: 03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM～8:00 PM
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
 TEL. 03-3233-3312(代)
 URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

**営業の
ごあんない**

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

